

唐津街道 原町

原町は、唐津街道沿いの歴史的な町並みです。唐津街道とは、佐賀県の唐津市と福岡県の北九州市を結ぶ 100km ほどの長さの道です。

江戸時代（1603～1867 年）、唐津街道は、九州を通る主要街道の 1 つでした。大名も唐津街道を使っていました。大名は、幕府への忠誠を示すため、隔年で江戸（現在の東京）の将軍に拝謁し、江戸に住むよう求められていました。

唐津街道の多くの部分は近代化されましたが、昔の雰囲気を保っている地域もいくつかあります。原町はこのような地域の 1 つであり、江戸時代、明治時代（1868～1912 年）、大正時代（1912～1926 年）の様々な建物が修復されて残っています。いくつかの古い家屋は、現在、店舗やレストランとして使われています。「街道そば たからい」は、築 150 年の家を修復したそば屋です。「楽市楽座」は、大正時代の豪邸を使った古美術店です。

原町は、戦後の著名な画家である中村研一（1895～1967 年）・琢二（1897～1988 年）兄弟の出身地です。2 人とも洋画の肖像画を専門としていました。2 人の子ども時代の家（1907 年築）は、修復され私立美術館になっています。

地域における保存の努力により、古い建物の多くが、この地域の伝統的な性格を保つために維持・修復されてきました。木製の大きな灯籠と、興味深い建物の地図が、唐津街道の歴史ある地区である原町の目印になっています。